

2005（平成17）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 人間は常に環境内で生活するので、そのすべての行為は、能動的、主観的な人間主体と受動的、客観的な環境とを媒介するから。
- 二 行為が本質的に技術的であれば、徳も行為に属する以上、身体による行為における技術的な才能・能力とみなしうるということ。
- 三 社会的環境での人間の行為は、主体と主体とを媒介するものとして、客観的に表現された文化を通じてなされるということ。
- 四 心の技術が主観と客観とを媒介的に統一し、主体の側で非理性と理性の調和した心の徳を有する自己を形成するということ。
- 五 徳は、人間の行為に属し、主体と環境とを媒介する技術的な有能性である。心の技術は、主体の側で心の徳を得る技術であるが、物の技術と結びつき、自己形成のための修業が社会的活動のうちで行われることで、自然的・社会的環境をも形成する有能性を表すから。（一二〇字）
- 六 a 卓越 b 飛躍 c 顕著 d 帽子 e 魂